

②安全の追求

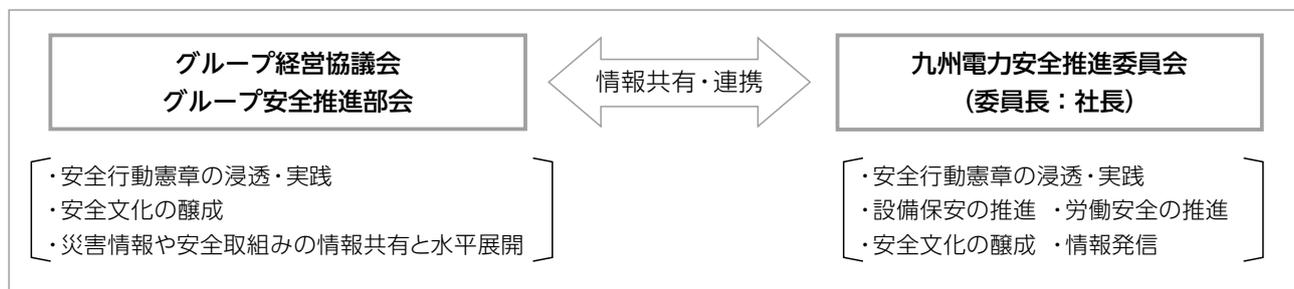


●グループ一体となった安全の取組み推進

九電グループは、事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげることを目指します。

九州電力(株)及び九州電力送配電(株)の「九州電力安全推進委員会」と、グループ会社(39社)の安全担当役員が参画する「グループ安全推進部会」を中心とするグループ一体となった安全推進体制のもと、「九電グループ安全行動憲章」に基づく取組みを通じて、社員一人ひとりが安全を最優先する風土・文化の醸成を推進しています。

■グループ一体となった安全推進体制



九電グループ安全行動憲章(2017年12月制定)に基づく安全の取組み推進

九電グループが目指す安全とその基本方針を示した「九電グループ安全行動憲章」等を意識と行動のベースとして、「経営の基盤である安全」に関わる取組みを推進しています。

安全行動憲章の内容は協力会社も含めて共有し、持続的な実践に努めていきます。そして、「安全を最優先する風土・文化」を組織のDNAとして刻み込み、世代を越えてつなぎ続けていくことができる九電グループを目指します。

九電グループ

〔九電グループ安全行動憲章〕

九電グループは、事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげることを目指します。このため、労働安全、設備保安の観点から、経営の基盤である安全を最優先する企業活動に向け、次の5つの行動を徹底します。

[1 安全の創造と進化 2 声の反映と情報発信 3 風通しの良い環境づくり 4 自己研鑽 5 DNAの伝承]

職場

〔九電グループの安全の誓い〕

「いってきます」、「おかえりなさい」、そんな言葉を交わせる安心した毎日を守り続けます。そのために、一人ひとりの強い決意とゆるぎないチームワークで、常に安全について考え行動します。

個人

〔一人ひとりの安全行動3か条〕

- 1 「学び、守る」安全行動の本質を学び、確実に守ります。
- 2 「気づく」地域や仲間の声を聴き、議論し、新たな危険に気づきます。
- 3 「進化」気づきを安全行動に進化させます。

・グループ一体となった安全の取組み

九電グループ各社の安全実務責任者が参画する「安全ワークショップ」を実施し、労働災害の撲滅、安全文化の醸成に向けた課題や取組みについて議論しています。

2019年度は、重篤な災害撲滅に向けた取組みをテーマにグループ全体で課題を共有し対策を立案しました。

具体的には、オフィスワークが中心の職場でもなじみやすい活動を検討し、オフィス内や通勤途上、日常生活でも活用できる安全ポイントを制定し、グループ全体で展開しています。

今後も、グループ一体の活動を通じて、安全レベルを向上させていきます。



安全ワークショップの様子

・安全ワークショップで制定した

「業種を問わず重篤になり得る安全ポイント」

業種を問わず重篤になり得る災害の安全ポイント

な・が・ら・だ・め

ひとと声・ひと呼吸運動

- 2019年度より重篤な災害撲滅に向け、重大災害に的を絞った安全活動を展開していますが、重篤な災害に至る可能性がある災害には、転倒などの業種を問わずオフィス内や通勤途上、日常生活でも発生するものもあります。
- 「ひとと声・ひと呼吸運動」は、その業種を問わず重篤になり得る災害を防止するための安全ポイントを整理したものです。
- 安全は、「危険だと感じる**知覚**」、「自分の状態や無理な動作、悪天候・不安定な場所など環境変化の状況から危険だと感じる**意識**」、そして「危険だと察知したことを回避する**行動**」が全てそろってはじめて確保できます。
- この「ひとと声・ひと呼吸運動」を実践するとともに、相互に注意・指摘し、危険感受性の高い人・職場をつくり、会社そして九電グループ全体の安全文化を醸成させましょう。

から行動 しない!

○ **スマホは立ち止まって操作(周囲の安全確認)**

× 守らないと...

- ・ケータイ・スマホを見ながら歩いていて自動車や人と接触
- ・ケータイ・スマホを見ながら階段を下りていて踏み外して転落

加いしゅつ・つうきん時の 車両運転!

○ **自動車・二輪車の運転は余裕を持って(冷静な判断)**

× 守らないと...

- ・自動車を運転中に前方不注意で停止車両に衝突
- ・自転車で交差点を通過しようとして左折車に巻き込まれ転倒

くはしないで 踏み台・脚立!

○ **安定した踏み台・脚立等を平坦な場所で正しく使用(近道禁止)**

× 守らないと...

- ・キャスター付きのイスに乗り腰上の物を取ろうとして転落
- ・脚立から身を乗り出し蛍光灯を取り換えようとして転落

かいはんは 手すり!

○ **階段の上り下りは常に手すりが使える体勢(安全設備の利用)**

× 守らないと...

- ・書類を手に持って、階段を昇降時に転倒して転落
- ・階段、エスカレータを駆け上がりバランスを崩して転落

いんどうでも 整理・整頓!

○ **職場のきれいを保って安全確保(5Sの徹底)**

× 守らないと...

- ・オフィス内で床の配線につまづき転倒
- ・濡れた廊下で足がすべり転倒

制作:グループ経営協議会 グループ安全推進部
安全ワークショップメンバー(2020年2月)

事業所における自律的な取組み

九州電力(株)及び九州電力送配電(株)の各事業所では、安全行動憲章の主旨を踏まえ、グループ会社や協力会社等と一体となって安全文化醸成に向けた様々な取組みを自律的に推進しています。

安全意識・一体感醸成の取組み

九州電力送配電(株)延岡送変電工事所では、委託・請負先も含め、ヒヤリハット事例等を目にしやすいミーティングスペースに掲示するとともに、都度、気づき事項を現場設置のホワイトボード等に見える化し、速やかな改善を行うことで、安全意識・一体感の醸成に努めています。

[九州電力送配電(株)延岡送変電工事所]



ヒヤリハット等は現場に掲示し目にしやすい環境に整備



施工班単位で表彰を行いチームで安全に取り組む士気を高める

「自ら考え行動できる」人づくりの取組み

九州電力送配電(株)宮崎支社では、委託・請負先も交え、参加者自らが命の尊さを深く考えるような問いかけ形式での講話を実施し、「安全(命)」を最優先する意識レベルを高め、行動に移せる人づくりに努めています。

[九州電力送配電(株)宮崎支社]



世の中で最も大事なものは何かを問いかける



命を守ることを、ルールを守ることを必要性を考える

●労働安全衛生

九州電力(株)及び九州電力送配電(株)では、厚生労働省が指針を示している「労働安全衛生マネジメントシステム」の考え方に基づき、従業員、委託・請負先一体となって、組織的・計画的に労働災害防止活動を推進しています。

「安全と健康は、すべてに優先する」という基本的な考えを堅持し、個人の意識向上、組織の機能強化を図りながら、安全面では「災害ゼロの達成」、衛生面では「心身両面における健康増進」を目標に、「安全衛生管理方針」を制定しています。

「安全衛生管理方針」では、「重大災害に的を絞った安全活動の推進」「作業災害防止対策の推進」「交通災害防止対策の推進」「公衆災害防止対策の推進」「安全文化醸成への取組み」を活動内容として掲げ、目標・計画の策定(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Action)のPDCAサイクルを回すことによって安全レベルの向上に取り組んでいます。

災害発生時は、当該事業所において災害発生要因を究明し、事故防止検討会や安全衛生委員会等を通じて再発防止対策を講じるとともに、災害事例や再発防止策を全社ポータルサイト等において共有することにより、類似災害の発生防止に努めています。

「災害ゼロの達成」に向けた取組み

社員の業務上災害や委託・請負先の災害が毎年発生しており、現場における安全作業の徹底を図るため、リスクアセスメント等災害の未然防止対策の推進、災害発生後に根本原因を深掘りした再発防止対策の検討及び実施、並びにその実施状況の確認等フォローを行っています。

また、コンプライアンスの観点から労働安全衛生法令に関する教育や、危険感受性を高めるために危険体感研修等の安全教育も実施しています。

■九州電力(株)安全教育実績(2019年度)

○法定教育……………2,136名	○階層別研修
・雇入時(新入社員)……………248名	・一般社員安全研修……………911名
・職長……………1,849名	・管理職安全研修……………355名
・安全管理者……………39名	

■業務上災害件数(事故種類別)



委託・請負会社と一体となった安全活動の推進

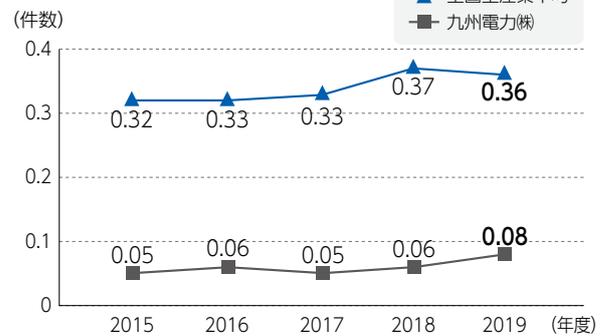
死亡や身体に障害が残るような重篤な災害を撲滅すべく、委託・請負先と一体となって、重大災害に的を絞った安全活動に取り組んでいます。

委託・請負会社との安全懇談会等における情報の共有や、安全パトロール等による現場の安全管理状況の確認等を通じて、設備や作業手順等の安全性向上に取り組んでいます。

用語集

コンプライアンス
リスクアセスメント

■労働災害事故発生割合(*)の推移



■労働災害強度率(*) (被災程度)の推移



■委託・請負先災害件数(*)



新入社員に対する安全教育の徹底

新入社員教育では、「安全と健康に対する意識の形成、安全行動の習得」を目的に、基本動作・安全対策の必要性の理解や、感電・墜落・落下物・電力量計のショート等の危険を体感する電気安全教育、業務上疾病予防講話（熱中症等）、健康管理講話等、様々な教育を実施しています。

また、教育期間全体を通して、危険予知活動やヒヤリハット体験等の活動も行い、安全意識の更なる醸成に努め、「安全と健康はすべてに優先する」ことを意識させています。

■危険体感教育(短絡体験)



TOPICS

災害に「気づき、学び、考える」そして「やる気を喚起する」安全研修を行っています

グループ会社の(株)九電工では、グループ全社員が安全教育施設(「安全伝承館」)で、安全確保の重要性を学んでいます。

研修参加者は、施設における5つのス

トップでの学習や、危険体感訓練等、丸1日かけて安全研修を受けており、関連会社を含めた全社員に定期的な受講を義務付けています。

(これまで延べ約1万人以上受講)

教育施設「九電工アカデミー」内に設置しています。



●設備の保安確保

火力発電所の安定運転に向けた取組み

再生可能エネルギーの導入が進み、特に太陽光発電の接続が急増していく中、電力の安定供給のための需給調整機能として、火力発電所は大きな役割を担っています。

このため、九州電力(株)では事故が発生しないよう安全を第一に考え、以下の取組み等により、安定運転に万全を期しています。

- 週末、祝祭日(年末年始、ゴールデンウィーク等)の電力需要が少ない日を利用した点検・補修
- 社員と協力会社が一体となったパトロールや運転状態監視の強化による設備異常の早期発見

- トラブル発生時の昼夜を問わない早期復旧対応

■パトロールによる設備異常の早期発見



指差呼称による計器の確認



聴診棒による異音の確認

水力発電所における安全対策の取組み

耳川(宮崎県)では、2005年の台風14号による記録的な降雨の影響で、山の斜面の崩壊や過去最大の浸水等土砂に起因する甚大な災害が発生したため、「地域の安全と安心の確保」と「人と多様な生物の共生」をめざして、山地から河川、海岸にわたる流域関係者が一体となって、様々な協働の取組みを進めています。(耳川水系総合土砂管理計画・2011年宮崎県策定)

この中で九州電力(株)は、ダムを改造し、洪水時に貯水池の水位を下げ、流れ込む土砂を水の流れを利用して流

下させるダム通砂運用を2017年度から実施しています。これにより、ダム上流側では洪水に対する安全性の向上、ダム下流側では河川環境の改善が期待されます。

■土砂流下を行うためのダムの改造



山須原ダム(改造前)



山須原ダム(改造後イメージ)